



## 平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月13日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社アスモ

コード番号 2654 URL <http://www.asmo1.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 長井 尊

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画室室長

(氏名) 岡田 秀樹

TEL 06-6683-3101

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	7,002	21.3	535	△4.5	536	△4.0	446	△15.9
24年3月期第3四半期	5,772	△14.0	560	185.4	558	—	530	△70.0

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 501百万円 (△5.6%) 24年3月期第3四半期 531百万円 (△70.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	3.18	—
24年3月期第3四半期	3.78	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	3,415	1,937	52.1	12.69
24年3月期	2,957	1,429	44.8	9.44

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 1,779百万円 24年3月期 1,324百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,724	10.6	744	△5.7	732	△3.9	630	△33.9	4.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 1社 (社名) サーバントラスト信託株式会社 、 除外 1社 (社名)  
(注)詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 有  
④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	151,451,750 株	24年3月期	151,451,750 株
25年3月期3Q	11,242,601 株	24年3月期	11,242,601 株
25年3月期3Q	140,209,149 株	24年3月期3Q	140,209,149 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当社は、平成24年7月1日より会社名を「シンワオックス株式会社」から「株式会社アスモ」に変更いたしました。  
2. (将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	P. 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	P. 3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	P. 3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	P. 3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	P. 3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	P. 3
3. 四半期連結財務諸表 .....	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	P. 6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	P. 6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	P. 7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	P. 8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	P. 8
(5) セグメント情報等 .....	P. 8
(6) 重要な後発事象 .....	P. 10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興関連需要を背景とした緩やかな回復が続いており、政権交代に伴う経済政策への期待による円安、株高の動きがあるものの、欧米の財政問題や新興国の成長鈍化等を背景として、海外経済では依然として懸念材料が残っており、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の下、当社グループは、給食事業を収益の柱として一層の向上を図るとともに、その他の事業についても安定的な収益の確保に向け取り組んでおり、第2四半期連結会計期間においては、当社100%子会社である株式会社アスモ介護サービスを設立し、今後の成長が見込める訪問介護の分野に進出いたしました。

また、平成24年12月26日付けでサーバントラスト信託株式会社の株式を取得したことにより連結子会社化し、新たに信託事業へと進出いたします。これは、信託事業の目的である「財産管理」や「入居一時金の保全等」を介護事業において、付加サービスとして提供することで、高齢者の方々から信頼を獲得し、より安心して介護サービスを受けていただけるよう開始するものであります。なお、サーバントラスト信託株式会社のみなし取得日を平成24年12月31日としているため、当第3四半期連結累計期間については、四半期貸借対照表のみを連結し、四半期連結損益計算書には含めておりません。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高7,002百万円（前年同四半期比 21.3%増）となりましたが、株式会社アスモ介護サービスにおける訪問介護事業所を、積極的に開設したことに伴う費用等が増加したことにより、営業利益535百万円（前年同四半期比 4.5%減）、経常利益536百万円（前年同四半期比 4.0%減）、当第3四半期連結累計期間における四半期純利益は、法人税等及び少数株主利益が増加したことにより446百万円（前年同四半期比 15.9%減）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### ① 卸売事業

卸売事業におきましては、東日本大震災の影響による経済の悪化、焼肉店における集団食中毒事件の発生、さらには生食に対する規制が強化されるなど、食肉業界において需要の冷え込みが未だ続いております。

当社が取り扱っている商品におきましても、牛内臓肉の販売において焼肉店向け商品の価格の下落等があり、利益に影響をおよぼしました。しかしながら、既存顧客に対する継続販売を中心に強化し、牛肉のみではなく豚肉等の低価格商品の取り扱いを増やした結果、売上高・利益額共に増加いたしました。

今後は、米国産牛肉の規制緩和により30ヶ月齢以下の牛肉商品が輸入可能となることから、従来供給面で不安定であった米国産牛肉を安定的に購買し、日本の市場に見合った商品作り及びブランド化を行い、より付加価値の高い商品開発をしていくことで卸売業者から消費者まで満足度の向上を目指してまいります。

結果、卸売事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,357百万円（前年同四半期比 45.2%増）、営業利益は、44百万円（前年同四半期比 78.8%増）となりました。

#### ② 外食事業

外食事業におきましては、連結子会社であるOX (H. K.) COMPANY LIMITEDが、1979年の会社設立以来、香港にてショッピングモール内のレストラン及びフードコートを中心に外食店舗を運営しております。

業態としましては、うどんを中心に寿司や天婦羅を組み合わせた、御膳メニューの和食店を運営しております、「今助」を2店舗、お好み焼き、たこ焼き、大判焼き等の、大阪の粉もん文化をコンセプトにしたファストフード店を運営しております、「秀吉」を5店舗、スパゲティ、オムライス、カレーライス等の日本の洋食を凝縮したファストフード店を運営しております、「北の坂」を3店舗、ラーメン「山頭火」のフランチャイジー1店舗、豊富な和食メニューを取り揃えた居酒屋を運営しております、「蔵人」を2店舗等の計14店舗を展開しております。

今後におきましても、本格的な和食の浸透に向け、食材にこだわり、「今助」、「秀吉」、「北の坂」、「山頭火」を中心に、立地条件にあった業態店舗を出店してまいります。

結果、外食事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、978百万円（前年同四半期比 14.0%増）となり、営業利益は、77百万円（前年同四半期比 76.7%増）となりました。

#### ③ 給食事業

給食事業におきましては、従来、高齢者介護施設を中心として給食の提供先を増大して参りましたが、そのほか、医療機関、高齢者専用賃貸住宅、社員食堂及び学生寮等といった高齢者介護施設以外からの幅広い分野においても受託先が増加いたしました。なお、当第3四半期連結会計期間末時点における受託施設数（労務委託等の部分委託を含む）は、230施設（前年同四半期末時点は183施設）となっております。

今後においても、より積極的に多くの分野に対して給食の提供を働きかけることで、様々なニーズに対応可能でありながら、全従業員が管理栄養士・栄養士である専門性の高さを強みに事業を展開してまいります。

結果、給食事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、4,358百万円（前年同四半期比 16.1%増）、営業利益は、527百万円（前年同四半期比 3.7%減）となりました。

#### ④ 介護事業

介護事業におきましては、株式会社ベストライフの開設した高齢者介護施設の入居斡旋業務に加え、第2四半期連結会計期間において、当社100%子会社である株式会社アスモ介護サービスを設立し、訪問介護の分野に進出いたしました。

入居斡旋業務については、前期に開設した高齢者介護施設の前第4四半期中の前倒し需要が影響し、また、訪問介護につきましては、事業の開始以来積極的な事業所の開設を進めており、当第3四半期連結会計期間末現在において、21事業所（大阪府内11事業所、埼玉県内6事業所、神奈川県内4事業所）を設置いたしました。この内、行政から指定取得の完了した大阪府内10事業所の営業を開始しており、ご契約者数は347名となっております。

今後におきましても、埼玉県、神奈川県内の10事業所の営業を開始することで、ご契約者数は大幅に増加すると考えております。

しかしながら、事業所の開設及び人員増加等による販売費及び一般管理費の増加に伴い営業利益に影響を及ぼしましたことから、結果、介護事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、308百万円（前年同四半期比 36.7%増）、営業利益は、90百万円（前年同四半期比 43.6%減）となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は3,415百万円となり、前連結会計年度末に比べ457百万円増加いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が204百万円、たな卸資産が78百万円増加したことによるものであります。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は1,478百万円となり、前連結会計年度末に比べ50百万円減少いたしました。これは主に短期借入金が260百万円減少し、未払金が86百万円、買掛金が78百万円、未払法人税等が33百万円増加したことによるものであります。

#### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,937百万円となり、前連結会計年度末に比べ507百万円増加いたしました。これは主に四半期純利益446百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は52.1%（前連結会計年度末は44.8%）となりました。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成24年5月14日の「平成24年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社は、平成24年12月26日付けでサーバントラスト信託株式会社の株式取得による子会社化に伴い、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。当該会社の資本金の額が、当社の資本金100分10以上に相当するため、当社の特定子会社に該当することとなりました。

なお、当該会社のみなし取得日を平成24年12月31日としているため、当第3四半期連結累計期間については、四半期貸借対照表のみを連結し、四半期連結損益計算書には含めておりません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### (減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方針に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	666,265	501,232
受取手形及び売掛金	843,451	1,048,273
商品	160,289	237,201
貯蔵品	12,089	14,107
その他	277,899	306,367
貸倒引当金	△471	△2,188
流動資産合計	1,959,522	2,104,994
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	515,283	568,605
有形固定資産合計	515,283	568,605
無形固定資産		
のれん	408,143	589,918
その他	2,229	2,421
無形固定資産合計	410,372	592,339
投資その他の資産		
その他	409,663	483,027
貸倒引当金	△337,291	△333,723
投資その他の資産合計	72,371	149,304
固定資産合計	998,027	1,310,249
資産合計	2,957,550	3,415,243

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	316,493	395,073
短期借入金	626,208	366,208
未払金	325,143	411,390
未払法人税等	24,013	57,280
賞与引当金	36,963	53,642
返品調整引当金	10,193	5,171
その他	153,894	179,648
流動負債合計	1,492,910	1,468,416
固定負債		
長期借入金	12,110	9,423
退職給付引当金	—	276
その他	23,107	—
固定負債合計	35,218	9,700
負債合計	1,528,128	1,478,116
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,323,272	2,323,272
資本剰余金	2,374,344	2,374,344
利益剰余金	△3,368,825	△2,922,789
自己株式	△42,303	△42,303
株主資本合計	1,286,488	1,732,524
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	37,577	46,819
その他の包括利益累計額合計	37,577	46,819
少数株主持分	105,356	157,783
純資産合計	1,429,421	1,937,127
負債純資産合計	2,957,550	3,415,243

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	5,772,707	7,002,298
売上原価	3,978,504	5,048,208
売上総利益	1,794,203	1,954,090
返品調整引当金戻入額	4,244	10,193
返品調整引当金繰入額	7,272	5,171
差引売上総利益	1,791,174	1,959,111
販売費及び一般管理費	1,230,279	1,423,253
営業利益	560,895	535,858
営業外収益		
受取利息	129	102
為替差益	—	6,908
その他	30,427	4,516
営業外収益合計	30,557	11,528
営業外費用		
支払利息	13,798	8,017
株式交付費償却	7,539	—
為替差損	7,694	—
その他	3,751	2,816
営業外費用合計	32,783	10,833
経常利益	558,669	536,553
特別利益		
固定資産売却益	—	19
特別利益合計	—	19
特別損失		
固定資産売却損	240	36
固定資産除却損	2,212	—
店舗閉鎖損失	2,217	—
会員権売却損	—	804
和解金	—	1,300
特別損失合計	4,670	2,141
税金等調整前四半期純利益	553,998	534,431
法人税、住民税及び事業税	12,284	50,965
法人税等合計	12,284	50,965
少数株主損益調整前四半期純利益	541,714	483,465
少数株主利益	11,609	37,429
四半期純利益	530,105	446,036



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	541,714	483,465
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△10,272	18,121
その他の包括利益合計	△10,272	18,121
四半期包括利益	531,442	501,587
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	524,866	455,278
少数株主に係る四半期包括利益	6,576	46,309

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	卸売事業	外食事業	給食事業	介護事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	934,430	858,248	3,754,188	225,840	5,772,707	—	5,772,707
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	934,430	858,248	3,754,188	225,840	5,772,707	—	5,772,707
セグメント利益	24,873	44,033	547,486	161,191	777,584	△216,689	560,895

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	777,584
セグメント間取引消去	—
のれんの償却額	△18,270
全社費用（注）	△198,418
四半期連結損益計算書の営業利益	560,895

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	卸売事業	外食事業	給食事業	介護事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,357,070	978,065	4,358,410	308,752	7,002,298	—	7,002,298
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8,290	—	848	—	9,138	△9,138	—
計	1,365,360	978,065	4,359,258	308,752	7,011,437	△9,138	7,002,298
セグメント利益	44,479	77,797	527,235	90,915	740,427	△204,568	535,858

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	740,427
セグメント間取引消去	2,996
のれんの償却額	△18,270
全社費用(注)	△188,741
たな卸資産の調整額	△553
四半期連結損益計算書の営業利益	535,858

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、第2四半期連結会計期間において、株式会社アスモ介護サービスを新たに設立したことに伴い、連結の範囲に含めております。当該会社の報告セグメントは「介護事業」としております。

また、当第3四半期連結会計期間において、株式の取得によりサーバントラスト信託株式会社を子会社化したことに伴い連結の範囲に含めております。当該会社は「その他」のセグメントに含めますが、当第3四半期累計期間には損益を取り込んでいないため、「その他」の区分を設置しておりません。

4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間において、株式会社アスモ介護サービスを設立し、連結の範囲に含めたことに伴い、「介護事業」で前連結会計年度の末日に比して、資産が101,327千円増加しております。

また、当第3四半期連結会計期間においてサーバントラスト信託株式会社の株式取得による連結子会社化に伴い、前連結会計年度の末日に比して270,785千円増加しております。当該増加分は当第3四半期連結会計期間において、「その他」のセグメントに含まれます。

5. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、当社はサーバントラスト信託株式会社の株式取得により連結子会社化しております。このことにより、当第3四半期連結会計期間におけるのれんの増加額は「その他」のセグメントにおいて、204,007千円であります。

